



NPO法人アスイク (宮城県仙台市)

団体の活動

2011年に発生した東日本大震災の直後に、避難所で生活する子どもたちの学習支援を開始しました。その後、震災によって顕在化した子どもの貧困問題に取り組み、仙台市や宮城県などと協働しながら、ひとり親家庭などの学習・生活支援事業を実施しています。他に不登校や高校中退などによって居場所のない子どものフリースペース、子ども食堂、保育園、児童館なども運営。「一人ひとりの生き方をつむぐ」をミッションに、子どもたちが自分なりの幸せな人生を送れるような社会づくりを目指しています。

コロナ禍での 取り組み・課題

学校が臨時休校になった2020年3月ごろから、学習・生活支援事業に参加している保護者たちから苦しさを訴える声が聞こえてきました。減収や失業による収入の減少、学校休校による食費や光熱費の上昇といった状況に対応するために、3月から毎月300世帯以上にお米やレトルト食品などの食料を提供しています。また、上記のような状況によって保護者、子どもともにストレスが高まり、一部で親子関係の悪化が見られたり、もともと精神的に不安定で命の危険性がある家庭があることから、一部の家庭には食料を直接お届けしながら安全確認や困りごとへの相談支援も行っています。

寄付の使い方 (目標金額100万円)

経済的に困窮する子どもや保護者へお届けする食品の購入費
(300世帯に1週間分の食糧提供ができます)

応募者へのメッセージ

寄付を集めるのは、単にお金を集めることではありません。いま社会に起きていることをたくさんの方が知り、関心を持っていただくためのキッカケでもあります。そのためには、皆さん自身が社会の問題に関心を持ち、正しく理解することが大切です。

最初は何となく気になる程度だったけど、寄付集めを通して皆さん自身の関心が深まり、次のチャレンジをしてみたいくなる。そんな風になれば、最高だと思います。皆さん自身の視点や発想を大事にしてください。



NPO 法人 移動支援 Rera (宮城県石巻市)

団体の活動

2011年3月、東日本大震災で甚大な被害を受け「最大被災地」と呼ばれた宮城県石巻地域で被災し移動手段を失った住民を送迎するボランティア組織として活動を開始しました。災害から10年目を迎える現在でもニーズは減ることがなく、高齢者や障害者など、復興から取り残されがちな災害弱者と呼ばれる方々の送迎を続けています。また送迎だけでなく、身体が不自由で孤立しがちな移動手段のない住民と一緒に買い物や温泉などへ行く「付き添いつきお出かけ送迎」、送迎の担い手育成のための講習会開催なども行っています。

コロナ禍での 取り組み・課題

新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されている中、通院などの生命に関わる重要な移動手段を維持するため、消毒や換気、マスク着用などを徹底した上で、地元のボランティアが中心となり、コロナの影響下でも毎日40～50名ほどを病院や買い物などに送り届けています。もともと呼吸器や循環器などの基礎疾患を抱え体力のない高齢者や障害者の利用者も多いため、感染対策は非常に重要です。私たちが送迎しないと必要な外出の術を失い、持病の悪化等生命に関わる危険のある方も多く簡単に活動を休むことはできません。普段は一人ぼっちの利用者などが心待ちにしている「付き添いつきお出かけ送迎」は一時休止しており、心身の健康維持のためにも、安全に再開する術を模索中です。

寄付の使い方 (目標金額100万円)

車いすやストレッチャーの方も送迎できる福祉車両を使った送迎の費用として役立てさせていただきます。

- ①送迎車両の燃料費や車検料、保険料、修繕費など
- ②送迎スタッフや住民を安全に送り届けるための衛生用品（消毒剤やマスクなど）

応募者へのメッセージ

10年前に被災して家や家族や大切なものをなくし、高齢や障害など様々な理由により自力で移動できず、ずっと大変な生活を送って来た方々が、今、新型コロナウイルス感染症の影響という「二重被災」をしています。また、石巻地域は2019年10月の台風によって、場所によっては津波よりも大きな被害が出ました。「三重被災」している方もいるのです。それでもみんな、毎日を笑ったり泣いたりしながら、私たちと同じように精一杯生きています。私たちは、そんな石巻の移動困難な方々が人間らしく生きていけるように、これからも「いのちの足」を守っていきたいと思っています。コロナ問題が落ち着いた後も、移動の問題は残ります。今まで考えたことがなかったかもしれない「移動」のこと、この機会にどうか一緒に考えてみて下さい。できれば、いつか石巻に来てみて下さいね。



NPO法人ポラリス（宮城県山元町）

団体の活動

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県山元町で、障がい者の「はたらく・たのしむ・まなぶ」を支援しながら、「障害があっても地域で素敵に生きはたらく事ができるしなやかで優しい地域づくり」を目指しています。

生涯学習やコミュニティアートを取り入れ「対話と学びの場」をつくりながら、立場や業界を超えた団体と連携して、被災地の新たな地域づくりとしての化学変化を起こし、地域を元気にする活動団体という存在で共感や協力をいただき活動しています。

コロナ禍での 取り組み・課題

ポラリスを利用している障がいのある人たちは、交通手段や経済面でも弱い立場の人たちです。また、宮城県山元町は障がい者の活動する場所も限られており、ポラリスで活動することを日々の張り合いや楽しみにしています。

日頃から不安の強い人が多いので、コロナ対策でますます心が不安定になっています。

これからも持続可能な活動を進めるために「3密」を避け、「新しい様式」を「いつもの習慣」に定着させながら、「はたらく・たのしむ・まなぶ」活動についても室内での密集を避け、屋外活動や何カ所かに分散した新たな活動方法を考えていくことが課題です。

寄付の使い方 (目標金額100万円)

障がいのある方のアートを活かした「アートな屋台」づくりのためのリヤカー屋台購入費

屋外で、障がいのある人もない人も共に楽しく交流できる活動を作りたいと考え、実現したいのが「屋台ポラリス」です。みなさんのご寄付で、リヤカー屋台を購入させていただき障がいのある方のアートを活かした「アートな屋台」をつくります。

アートな屋台とは、「動くコミュニティ」。町内を自由にめぐる屋台は、地域の様々な人が集まり、わいわいと楽しむ場。ゆくゆくは、屋台から地域の課題や話題をライブ中継したり、心のケアや孤立を防ぐためのコミュニティの場にしていきたいと思っています。

応募者へのメッセージ

私たちは、北の夜空でいつも輝き、見守っているポラリス（北極星）のように、地域の方々の道しるべとなる活動を進め、障がい者も含めた地域で暮らしている方々と「素敵に生き、はたらく」ことを目指しています。

私たちが活動している山元町は東日本大震災で沢山の人が津波の被害に遭い犠牲となりました。そんな傷ついた町が、障害のある人にも優しく、みんなで支え合える町に復興するように、地域の中で障がい者も参加できる様々なプロジェクトを企画し、地域の皆さんにも参加していただき交流して共感者を増やしてきました。

今回、応援してくださる中高生の皆さんと「素敵に生きる事・はたらく事」について考え合えたらと楽しみにしています。皆さんの発信パフォーマンスが楽しみです！



認定NPO法人多摩草むらの会 (東京都多摩市)

団体の活動

心の病を持つ精神障がい者が安心して自立した生活ができるよう、様々な形で支援事業を展開しています。力の弱い野うさぎが遠くのニンジン畑まで行って、ニンジンを手に入れるためには、途中で外敵から身を隠せる「草むら」が必要であるという、精神科医中井久夫先生の言葉を理念とし、精神障害者就労継続支援のための農場等6か所の施設（B型事業所、A型事業所、相談支援センター、グループホーム）を160名のスタッフで運営しています。

また、グループである社会福祉法人草むら、農地所有適格法人グリーンガーラとの連携で480名の登録された障がい者の支援の他、引きこもりの方などの就労困難な方々の社会参加の場も築いています。

コロナ禍での 取り組み・課題

緊急事態宣言後、建物自体が休館となってしまった事業所の飲食店や物販を行っているマルシェでは、外部のお客様への営業は出来なくなりましたが、店舗の整備やロールプレイ等の普段行いずらかった作業を行いました。その他の事業所でも、利用者の居場所を確保すべく三密を避けた環境を整備しながら通所できる環境を維持してきましたが、利用者には収入保証する方針のため、食品加工品などの売上確保が重要になっています。また、通所が出来なかった利用者にも、電話を掛ける等の在宅支援を続け、安定した自立生活のサポートに気を配りました。

寄付の使い方 (目標金額100万円)

多摩草むらの会が運営する事業所「パソコンサロン夢像」（就労継続支援B型事業所）での

- ①ウェブ制作・研究活動のためのパソコン・ディスプレイ購入費
- ②プロの写真家指導のもと「写真倶楽部」として活動するメンバー増員のための一眼レフカメラ・撮影用照明器具の購入費

パソコンサロン夢像は、パソコンに特化した事業所で、パソコンのインストラクター業務、名刺作成、データ入力などを行っていますが、一人当たりの工賃も安いうえに、さらにコロナ禍で仕事減少し、例年にも増して非常に厳しい状況となっています。機材が十分に確保できていない現状があり工賃の向上を目指す取り組みのため、機材を充実させたいと考えています。

応募者へのメッセージ

若いあなた達には私達にとっても及ばないパワーがあります。色々な変化があったとしても恐れる事なく、自ら課題を探し、考え、行動に移し、勇敢に乗り越える。そのような力を社会は必要としています。若い時に得た知識や経験はこれから大人になってあなた達が歩いていく時の道標になるかも知れません。どうぞ色々な世界を覗いて真実を見る目を養ってください、そして本当の共生社会が来るように、若い感性豊かなあなた達の力を必要としている人達がいることを忘れないで下さい。



認定NPO法人日本クリニクラウン協会 (大阪府大阪市)

団体の活動

「すべてのこどもにこども時間を」を合言葉に、赤い鼻がトレードマークのクリニクラウン(臨床道化師)を小児病棟に派遣し、入院しているこどもたちが、こども本来の生きる力を取り戻し、笑顔になれる環境をつくるために2005年から活動しています。クリニクラウンならではの、遊びやコミュニケーションを通じて、こどもの成長や発達をサポートしています。病棟スタッフと協働し、こどもの療養環境の向上を目指しています。

コロナ禍での 取り組み・課題

小児病棟では面会制限やプレイルームの使用制限、外泊禁止など、入院中のこどもたちや家族はこれまで以上のストレスや不安の中で過ごしています。また自宅療養中の場合は、感染のリスクから孤立傾向にあり、感染予防のためにこども同士が交流する機会が減少しているため、感染のリスクなく「こども時間」を届けたいとクリニクラウンWeb事業をはじめました。

こどもとクリニクラウンがWebカメラでリアルタイムコミュニケーションを行う①クリニクラウンWEB訪問「クリニクラウンWebであそぼう！」や②YouTubeクリニクラウンチャンネル動画配信。③クリニクラウンライブ配信など、Webを活用しクリニクラウンによる遊びや関わりを通して、こどものストレス緩和を目指します。

寄付の使い方 (目標金額100万円)

新型コロナにより厳しい制限を受ける闘病中のこどもたちへ感染リスクなく「こども時間」を届けるクリニクラウンWeb事業費の一部に活用します。

【2020年度目標】

- ①クリニクラウンWEB訪問「クリニクラウンWebであそぼう！」の実施
- ②YouTubeクリニクラウンチャンネルで45作品以上の動画配信
- ③クリニクラウンライブ配信の月2回実施

また、病院内にWi-Fi環境がない場合のポケットWi-Fiやタブレットの貸し出しサポート。YouTubeクリニクラウンチャンネルで配信している動画をDVDにしておくなど、小児病棟のスタッフの要望をヒアリングし、少しでも療養環境を支える取り組みをしていくための費用に充当していきたいと考えています。

応募者へのメッセージ

病院や自宅で療養をしているこどもたち、病気や障害を抱えるこどもたちやきょうだいが、病気のことを一瞬でもわすれて笑顔になれる「こども時間」を届けていきたいと思って活動しています。中高生のみなさんだからこそ「伝えたい」という想いがあると思います。動画作成を通して、共に学び、伝えたい「想い」を「カタチ」にすることで、この活動を応援してくれる仲間を増やしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。